

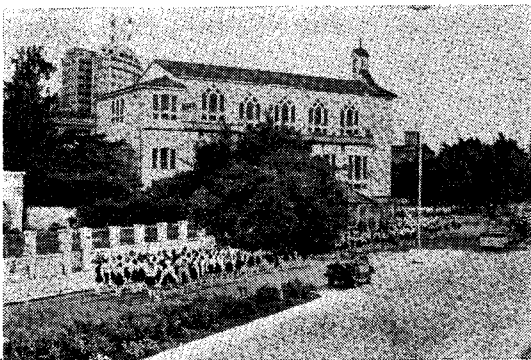
東北ブラジルみたまま——土木技術者の妻の記——

吉川 旻 子*

1. まえがき

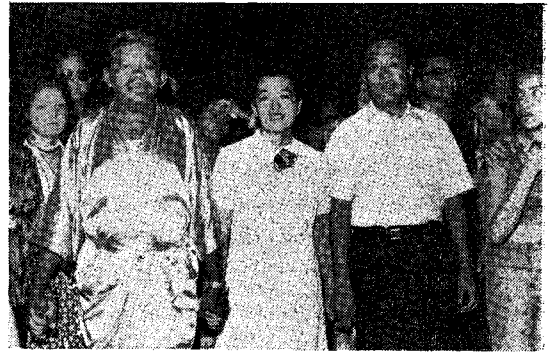
南緯8度、南米大陸が大西洋につき出した所にあるブラジルの高原の町カンピナグランデは、標高600mのせいか赤道直下というのに年中たいそう気候が良く、ちょうど日本の9月中ごろを思わせるような快適なところでありました。ポルトガル語でカンピナグランデとは大平原という意味ですが、この町はその名のとおり雄大な大平原の中に開け、以前は綿花で栄えた商業都市であったとか。人口わずか20万の小都市ではあるが、現在はサイザル（麻）とパイナップルの産地として再び脚光をあげ、サイザルはわが国へも輸出されているそうです。また、ここは静かな大学町でもあり、東北ブラジル唯一の大学院大学であるパライバ大学の工学部と経済学部があり、この地方の将来を担う若人がここから巣立っております。

私は開発途上国への技術協力のためパライバ大学大学院に派遣され、現地で交通計画に関する教育ならびに研究指導を行うことになった主人に従って1年間この町で生活し、この地の国民性、風俗、習慣などについての多くの知識を得る機会に恵まれたことを喜びに思っています。フェイラ（青空市場）、独立記念日、クリスマス、アノ・ノーボ（新年）、カーニバルなどの年中行事のことなど、今はなつかしい思い出となりましたが、私の目に映った東北ブラジルの一端を思いつくままにご紹介さ



9月7日の独立記念日に中学校の前をパレードする女学生

* 吉川和広（京大教授）正会員夫人



サンバの踊りの合間に記念撮影をする筆者（中央）と吉川教授（3月6日のカーニバルにて）

せていただきたいと存じます。

2. ブラジルのあゆみ

ブラジルは1500年ポルトガル人によって発見され、一時スペイン領となったが、その後ポルトガル植民地となり、現住民（インディオ）、黒人（ニグロ）、白人（ラテン系）と、これらの混血による人種で形成されているようです。

主な産業としてのコーヒーの産額は世界一であるのに対し、耕地は国土の2~3%とか、ファゼンダと呼ばれる大農場が現存し、耕地の80%はわずか2%の大土地所有者の手中にあり、農村人口の81%は土地をもたない人びとだそうです。このため主従関係が封建的であり貧富の差の大きいには驚きました。また牧畜も盛んで人口の倍近い牛、豚などがいるそうです。

そのほか鉱物資源も豊富で、鉄、マンガン、トリウムなども産出し、広い国土に豊富な資源を有しながら、財政は毎年赤字でインフレによって物価の騰貴が著しいといえます。しかし、最近では、メデシ政府の第一次国家開発計画により、「インフレなき開発をめざした投資プログラムを通して、今後一世代の間にブラジル経済を先進国の水準に高めること」を目標として着々とその実をあげているようです。

3. のんびり屋とせっかち屋

のんびり屋で時間がルーズという定評どおり、一年間

なに一つ約束どおりにいったことはありませんでした。でも、自分に対する利害関係になるとその限りでないのは、どこの国の人でも同じようです。

どこの職場も朝8時に始まり、正午から2時まで昼休みで、いったん家に帰って食事のあと昼寝をして再び出勤し、夕方5時で仕事は終わります。どんなに仕事が山積していようと急を要する用事があるろうが時間がくれば終わりですし、仕事のやり方もいたってのんびりしたものです。働きものの日本人にとっては、なぜもっと計画的に効率よく仕事を処理しないのかと驚いてしまいましたが逆にブラジル人の方では、日本人はなぜ休まずに働いて、あもせっかちなのだろうか。何を楽しみに生きているのだろうか、と首をかしげているようでした。

ある日のこと、手元のお金が少なくなったので米ドルのチェックを両替えしようと銀行へたのみにいったら、“ニューヨーク支店へ問い合わせるのでしばらく待つように”といわれ、1週間後に訪ねてみたら“さらにもう少ししばらく”とのこと、再三足を運んで1か月かかってようやく両替えできたこともありました。万事がこのような調子ですが、この国の人たちの辛抱づよいことにも驚かされました。私たちの住んでいた町では、ポンプや送水管の故障のためよく断水するのです。わずかの時間ならいざ知らず1日も2日も水がこないことがよくあり、ほとんど困ってしまった私たちは、まわらぬ言葉で何とかならないものかと、あちこち聞いてまわりますが、あちらの人たちは“今工事をしているからだ。直るまで待つしか仕方がない”ということで、水道会社へ文句などという人は一人もおりませんでした。

4. くらしさまざま

日本にあるようなものは何でもあり、食生活その他には全く不自由せず、珍しいブラジル料理のいくつかを学ぶこともできました。食器、衣料品のほかはすべて日本より安く、肉も果物も日本の1/10ぐらいで買うことができ、ここにいる間だけでも、ぜいたく三昧にすごすことができました。この町はパイナップルの産地で、最盛期には1クルゼイロ(約45円)で2個も買えます。また、夏みかん大のオレンジなら5個、バナナなら20本で1クルゼイロ、ヒレ肉は1kgが12クルゼイロ(540円)と、もし可能なら日本から買物かごをさげても買いに行きたくなるような話です。しかし、これは私たちに話のネタであり、現地の人たちにとっては、このような物価でもやはり苦しいという人が多くいることを忘れてはなりません。広大な土地と資源を有しながら文明の開花が遅れ、工業が十分発達していないため収入の道が



お友達の家に招かれて記念撮影(前列左から2人目が筆者)

ない人たちが多いからです。

東北ブラジルでは肉体労働力はすこぶる豊富ですが、技術労働力の不足に苦しんでいます。各州ごとに一応最低賃金を定めているとはいえ、なかなか守られていないようです。学歴による賃金格差は驚きというより信じられないほどです。例えば、パライパ州では、肉体労働者の賃金は年令にはあまり関係なく、月平均150クルゼイロ(約7000円)と低く、これで10人ぐらいの家族を養っているという状況で、どのようにして生活しているのか全く想像もつきません。反面、大学卒はその職場によっても異なりますが、月に4000~6000クルゼイロ(約18~27万円)の収入があります。したがって、人口の80%にあたる肉体労働者の家庭では、私たちの3日間の食費に等しい金額で多数の家族をかかえて1か月を暮らしていることとなります。

5. 教育の必要性

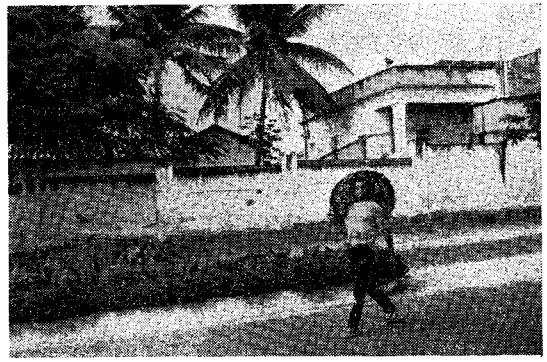
東北ブラジルの文盲率は51%といわれています。先ほども申しましたように、学歴による賃金格差が大きいかかわらず、各自現在の境遇に甘んじているようで依然として貧しさ故に学校へ行けない子供が多いようです。これらの子供たちは小さいながらも自然と独立の精神を身につけて、自分の食べる分は自分の力で、といったように自活しております。買物客の荷物の運搬、物売り、自動車洗い、靴みがきなどが、小さい子供たちの自活のための仕事です。

一応小学校4年間は義務教育であるのに、親の無責任と貧困さのために就学率は低く、優秀な労働力が育たないという悪循環が続いているようです。

ブラジル政府は、国の発展は教育からということに気づき、大いに日本に学ぼうとしています。このような努力が実を結んで教育が振興されることを望んでおります。



フェイラでの買物



かごを持った買物運搬人

6. お祭り好きなお国柄

ご存知のように、ブラジルといえば思い出すのが“サンパの国”ということです。陽気でテンポの速いあの音楽。あのリズムに合わせて歌ったり、踊ったりするのが最上の楽しみようです。私たちも幸い現地の有力者たち大勢と友達になることができ、このグループに誘われクラブへよく踊りにいったものです。日本人でも私たち夫婦ほど芸なしは稀であろうと思うのに、誘われれば断わることもできず、ままよ国際親善と、よくクラブで踊りの中に加わってからだをゆすっていたものです。また、お友達どうし寄り合っただけの会食などにもよく招かれました。フェジョア・ダ・ブッシャダなどブラジル独特の料理は、ごった煮の中から豚や羊の耳、足などが飛び出してくるので、いささか驚きましたが、それでも味つけの良さについ誘われて舌つづみを打ちながら、夜の更けるまでおしゃべりに興じたものでした。

ブラジルにもよく祝・祭日があって、そのつどクラブでフェスタ（お祭り）がありました。クラブに行けば必ずといってよいほど午前様で遊び明かしたことも何回かありました。こんなとき私たちは必ず翌日の仕事にさしかえたものですが、彼らは一日2時間ぐらいの睡眠で十分だとの精力ぶりには驚いた次第です。

このような家族ぐるみのおつき合いの輪が広がって、心豊かな社会ができていのはうらやましい限りです。

7. 買物風景

フェイラといって、週2回食料品、衣類、その他なんでも売る青空市が立ちます。戦後の日本のヤミ市を大きくしたようなもので、早朝から大勢の人びとでごった返します。肉屋、穀物屋、野菜屋、果物屋、魚屋など種類別にかたまっておりますが、普通1週間分をまとめて買

物いたします。ですから、肉の場合など何キロかの大きなかたまりを買うことになります。大腸菌だのPCBだのと衛生や公害にやかましい日本人にとっては、実際のフェイラの光景を見たら不潔で食べる気がなくなってしまおうと思います。私自身、初めのうちはハエや蚊はいるし、すべての品物はむき出しで、とても非衛生的だと感じましたが、慣れとは恐いもので、そのうちに何とも感じなくなってしまいました。どの家庭でも1週間分をまとめて買物しますので沢山の量になります。だから青空市のまわりには運び屋がウヨウヨしています。

ブラジルでは財布をもつのはすべて男性ですから、フェイラでの買物も主として男性の仕事ということになります。しかし、わが家の主人は生来の朝寝坊に加えて決してこのようなことをしようとはいたしませんので、フェイラでの買物はいつも私の役割。1人で買出しに行き両手に山ほどの荷物をさげてる私の姿を見て、運び屋連中は驚きの目を見はっておりました。

8. ブラジルは女性の天国

ポルトガル・スペイン系が多いせいか、女性は容姿端麗でとくに脚線が非常に美しいと思います。また、どんな田舎にいても美しい女性に出会うことができます。中流以上の家庭では、食事、掃除、洗濯、子供の世話とすべては女中がいたしますので、いつも美しく着かざって生活をエンジョイしています。お客を招いたときの食卓でのサービスは、もっぱら男性の役割です。私なども郷に入れば郷に従えと、主人をつついてマネては見るものの、慣れないのでいつも失敗の連続でした。

大学の女性はドトウラ（博士という意味だが、この場合大学卒という意味にあたる）と呼ばれて尊敬され、結婚して赤ちゃんができれば家庭にこもってしまいがちな日本女性と違い、社会の第一線で立派に活躍しております。しかし、このような女性の社会での活躍を支えて

いるのが、1か月90マルゼイロ(4000円)ぐらいで雇える女中たちであるということは考えさせられました。

9. 技術協力への証

国立パライバ大学には、イギリス、フランス、西ドイツ、オランダ、カナダ等の諸国から、技術協力によって多数の先生が派遣されており、とても国際色豊かな学園でした。主人は、これら先進国の先生方にまじって、大学院の学生さんたちに交通計画について講義するとともに、修士論文作成のためのお手伝いをしたとのことですが、学生さんたちは皆熱心で、講義への出席率は100%で、十分に内容を理解して、この国のこれからの発展のために活用していくと約束してくれたそうです。講義は45時間ずつ前後3回に分けてやったそうですが、毎回講義が終わるたびに、主人の指導とそれを助けた私への感謝の意を現わすためと称して、町一番のレストランでの食事に招待してくれたり、ハンドバックや豪華なサファイアのペンダントをプレゼントして下さいまして大変感激いたしました。東北ブラジルの明日を担う、陽気で真面目な学生さんたちと親しくなれたことを非常に喜びに存じますとともに、技術協力を通して、いささかでも日本とブラジル両国の親善に役立つことのできたことを大変誇りに思っております。

10. むすび

言葉の苦勞、国民性の違いからくる障害など、いろいろ苦勞したこともありましたが、結局、人種は違っても心は通じあうものである、ということがわかったのは大きな成果でした。ことにブラジルは対日感情がよく、私たちもとても尊敬され、皆から親しみを持っておつき合いをしていただきました。日ごとにブラジルに対する愛着も増し、最後には涙ながらに別れてくる有様でした。

ブラジルを後にアメリカを経由して帰国しましたが、ワシントン、ニューヨーク、ボストン、シカゴなど、さすが南米とは比べものにならない先進国の大都会といった風格がありました。しかし、ブラジルには、アメリカにはない人びとの豊かな心と開放的に底抜けに明るい社会があったように思います。ブラジルは国土も広く資源も豊富で、現在開発がどんどん進められておりますので近い将来にはすばらしい大国として躍進することを確信しております。

今後ブラジルをお訪ねになる多くの土木技術者の皆様方、巨大なブラジルの飛躍的な発展のために強力なお力添えをお願い申上げて、私のつたない筆をおかせていただきます。
(1973. 9. 18・受付)

材料力学演習 1・2

1. 金沢 武・山田嘉昭・高橋幸伯・竹鼻三雄・小林繁夫・岡村弘之 共著
A5判・240頁・¥1200

2. 鶴戸口英善・山本善之・国尾 武・高橋幸伯・藤田 譲・堀 幸夫・板垣 浩共著 A5判・216頁・¥1100/近刊

講義と演習指導の経験に基づいた懇切な例題指導と厳選された豊富な演習問題によって、基礎から応用までの問題解決の手法に精通させる。各章末には詳細な解答を付して、自学自習にも十分な自信を与える。

連続体の力学入門

Y.C.ファン著/大橋義夫他訳 A5判・304頁・¥2600

近年、自然科学の各分野で重要視されてきている連続体力学概念と原理をきわめてわかりやすく解説し、さらに、工学・物理学・化学・生理学等の各種分野から豊富な応用例を示して、実際問題の取扱いと解に至る手法を習熟される。

固体の力学入門 全2巻

E.P.ポポフ著/成岡昌夫 浜田実共訳/近刊

従来、“材料力学”と呼ばれてきた工業材料の変形挙動に関する基礎工学の分野を、新しい立場からきわめてわかりやすくまとめた一書。説明のための図面に特別の工夫をこらし、例題、演習問題を豊富に揃えて懇切に解説している。

培風館

〒102 東京都千代田区九段南4-3-12 振替東京 44725 TEL(03) 262-5256